

一般材とCLTで新本社

木造3階建て「テクノ キューブ」

住宅品質保証

ポラスグループの住宅品質保証（埼玉県越谷市、高橋一郎社長）の木造3階建て新本社ビル「テクノ キューブ」がポラテック（同、中内晃次郎社長）本社ウッドスクエアの隣に建設された。林野庁のJAS構造材利用拡大事業でCLTを採用し、一般流通材を組み合わせた合わせ柱、合わせつなぎ梁などを採用した。

住宅品質保証はポラスグループの地盤調査、品質検査、アフターメンテナンスを行う。従業員は258人で、新本社では159人が働く。現場の外回りの仕事が主で、事務系社員とは在社時間帯が異なるため、座席を決めないフリーアドレスを導入した。

ダウン金物の代わりに施工し、鉛直力は柱、水平力はCLTが負担する。重ねつなぎ梁は、6階以下の梁せい360mm以下の構造用集成材6Tを重ねて梁せいを大きくし、パネリッド

Xで2材を重ねて一体化する。長さ方向でもTSジョイントという接合具で一体化し、一般流通材で最大16階スパンに対応する。昨年6月の建築基準法改正により、高さ16階以下の場合には準耐火

面積580.67平方メートル、延べ床面積1726.02平方メートル。ポラテック木造建築事業部では、2020年3月期は施設系木造建築で受注14棟、売上高21億6600万円、今期は同23棟、18億4000万円を目指している。

高橋社長は「先代（中内俊三創業社長）が20年以上前から、ポラテックの新本社を建てたら、隣に当社の本社を建てようと土地を手当てしていたので、感無量。どうせならポラスらしい個性のある良い建物を造ろうと考えた」と話している。



1階ロビー。CLT耐力壁を現して使用した

で建設できたことになったことでも実現した。設計はポラテック、施工はポラテックとポラスハウジング協同組合。敷地面積895平方メートル、建築